令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	最上川 229 ネットワーク		
事業名	人と自然と地域がつながる最上川循環プロジェクト		
助成事業区分	協働助成事業（一般型）【自由提案部門】		
団体の 所在市町村	白鷹町	事業費	640,341 円
		うち助成金額	461,341 円
事業実施期間	令和７年６月１３日～令和８年２月２８日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

アユの稚魚を食害するブラックバスを効果的・効率的に処理をする方法・コミュニティを形成し、最上川におけるアユの漁獲量を回復させる。最上川のアユの漁獲量は、平成15年の178tをピークに減少傾向にあり、平成30年には33tとなり、5分の1以下の値となっている。その一因として、外来種であるブラックバスによるアユの稚魚の食害が影響している。山形県水産振興計画においても、掲げられているブラックバス等による被害の防止対策にむけた、ボランティアによる釣り駆除の取組みなど多様な駆除方法 の普及・実践を促進するために行った。

（実施内容）

〇8月24日：ブラックバス駆除のための、釣りスポット案内
- 白鷹町内における、最上川流域のブラックバス釣りスポットのMAPを作成し、参加者と一緒にMAPをもとにスポットを巡る案内ツアー行った。
- 参加者：９名
- マップ作成：５００部

〇9月3～5日：ブラックバスの駆除＋有効活用先進地へ視察
- ブラックバス駆除の先進地である滋賀県にて関係団体を視察した。
- 参加者：３名

〇11月9日：セミナーイベントの実施
- 視察した内容の報告および最上川流域の文化や歴史を学ぶセミナーを開催した。
- 参加者：７９名





事業の成果	・アユの漁獲量を回復に向けたバスの駆除量を増加させるためのブラックバスを有効的・効率的に処分できる方法を確立にむけて知見を得て、最上川に関心がある層に伝えることができた。 ・駆除したブラックバス由来の肥料を活用した農産物による取り組みからも、最上川の水産資源の保護について啓発することで、最上川やその水産資源に対する県民の意識が向上した。 ・釣りスポット案内参加者：９名 ・ブラックバスが育てたいも煮交流会内のセミナー参加者：７９名
今後の展望	・現在は、白鷹町役場などの協力による白鷹町内における取り組みであるが、滋賀県の視察で学んだ保管方法などを参考に、最上川流域の他の市町村に横展開を行う。 ・効率化に最上川流域を中心とする、事業者・団体とつながり駆除→保管→活用に向けたサイクルを安定的に実施できる体制を整える。 ・ブラックバスの活用内容の幅を広げられるかの調査を継続して実施し、食用利用などの可能性を模索する。 ・様々な要因が複雑に絡み合うアユの増加に向けた効果をより具体的に見える化するために、専門家等と連携し、モニタリング・調査方法などを検討する。 ・ブラックバスの肥料で育てた里芋を使用した芋煮会セミナーを継続的に実施し、最上川に関心を持つ層を拡大させて、事業に対する支援者・スポンサーの獲得につなげる。







団体概要

団体名　最上川229ネットワーク
代表者　共同代表　本木勝利
　　共同代表　今野正明

山形の母なる川、最上川流域の歴史・文化を掘り起こし、流域に住む住民が交流し、活動することによって現在から未来に向けて、次世代への継承を目的に活動中です。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	人と自然と地域がつながる最上川循環プロジェクト
団体名	最上川229ネットワーク

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	461,341	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	79,000	
その他収入	100,000	
自己資金		
合計	640,341	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	70,000	イベント講師謝金（40,000円）＋釣りスポットアドバイス謝金（20,000円）＋視察謝金（10,000円）
旅費	107,189	先進地視察
印刷製本費	51,689	釣りスポットMAP印刷+イベントチラシ印刷+セミナー資料印刷
消耗品･材料購入費	58,305	釣りスポット案内ツアー+セミナー消耗品
通信運搬費		
保険料		
使用料	257,150	貸切ジャンボタクシー+セミナー会場使用料
人件費		
委託費	92,268	セミナー司会費+MAPデザイン費+視察運転委託費
手数料	3,740	
(修繕費)		
合計	640,341	